

自分の思いや願いを素直に表現できる生徒の育成

～グループ・アプローチの実践を通して～

1 学級集団の状況 (中学校 2 年生 男子 18 人, 女子 13 人)

本校は、各学年 2 クラス、全校生徒 174 人の小規模校である。近年、学区にレジャー施設が建設され、休日等にはぎやかな面も見られるようになった。しかし、山と海に囲まれた、ふだんは大変のどかな地区である。学区に 1 小学校、1 中学校ということで、親子とも、他の生徒の親子をよく知っており、学区をあげて生徒たちの健全育成に取り組む風潮もある。そんな地域性もあってか、生徒たちは大変落ち着いていて、まじめな子が多い。一方、家庭的に恵まれない子や外国籍の子が市内でもっとも多い学校である。落ち着いているように見えても、内面で悩み苦しんでいる子がいることを意識して指導、援助した方がよいと思われる。

本学級は、明るく、はじめのあるよいクラスである。毎日の提出物は、ほとんどの生徒たちが忘れることなく出すことができ、教師の指示にしたがって確実に行動もできる。授業中の反応もよく、人なつっこい楽しい子たちである。一見、何の問題もない学級集団そして生徒たちのように思われる。しかし、現実には問題を抱えている生徒も多い。4 月以来、生徒たちとの学校生活や「楽しい学校生活を送るためのアンケート」(Q-U)の結果から気付いた点を具体的に挙げてみる。

(1) 本当は自信のないリーダーたち

4 月初、学級のリーダーを決めた。どのポストも立候補で決定し、前向きな生徒たちの存在に感心した。その後の活動ぶりも意欲的で、任された仕事を確実にこなすことはもちろん、学級全体に対し、的確な指示をする姿も見られた。また、学級全体もそれに従い、改善しようとする動きも見られた。学級全体に、リーダーにリーダーとして機能させる雰囲気があり、リーダー自身も自分の言動に自信をもって振る舞うことができると思われた。

しかし、右掲の「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」結果を見て、愕然とした。リーダーの座標を○で囲んでみたが、そのほとんどが「学級生活不満足群」に含まれていたのである。もう少し、アンケート内容を詳しく見てみると、男子の場合、承認得点としては、

「みんなから注目されるような経験をしたことがある」

「学校内で私を認めてくれる先生がいる」

という問いに対し、低い得点となっていた。

女子の場合は、承認得点として、

「仲のよいグループでは中心的なメンバーである」

「自分が何かしようすると協力してくれる友がいる」

「学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる」

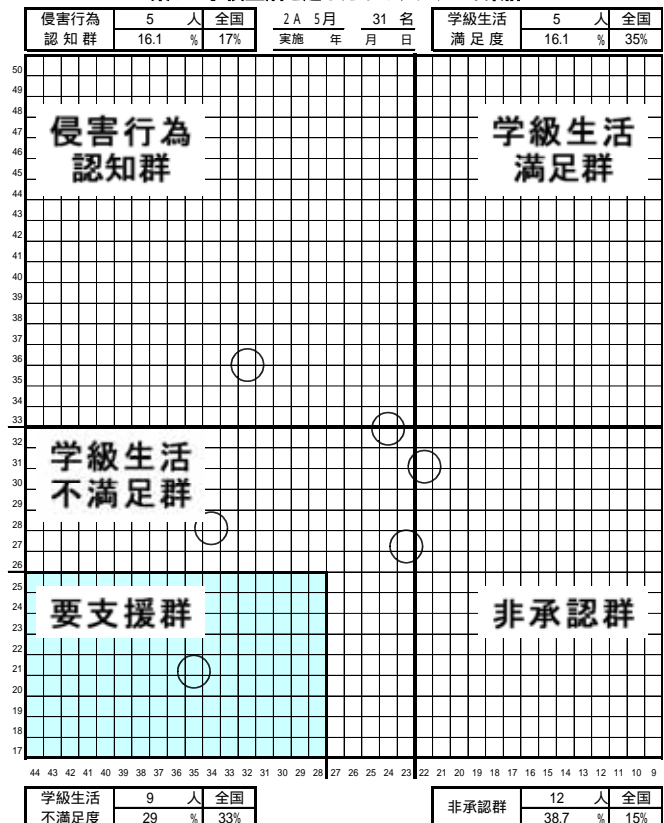
という問いに対し、低い得点となっていた。

また、被侵害得点として、

「まわりの目が気になって不安や緊張を感じる」

「クラスメイトの友人関係についてあまり知らない」

図1 楽しい学校生活を送るためのアンケート集計



という問いに対し、高い得点になっていた。この結果から、「小学校のころから何度もリーダーをやっている」「あの子に任せておけば大丈夫」と言われる子でさえ、自分に自信がなく、まわりの目を必要以上に気にしていることが分かった。リーダーを支える教師支援、リーダーに自信をもたせるための手だての必要性を担任として強く感じた。

(2) 自分を変えられない、友人関係を変えられない生徒たち

学区に1小学校、1中学校。学級も2クラス。集団に大きな変化がないにもかかわらず、「中学生になったのだから、新たな自分になれるよう、いろいろなことにチャレンジしてみよう」と語りかける教師たち。小学校6年間で作り上げられた生徒たちのイメージは、なかなか変えることができないようである。「あの子が賢くて、あの子が足が速い」「あの子は明るく活動的で、あの子は物静か」、そんな生徒たち一人一人のイメージのようなものがあり、その殻を自分では破れないようである。親でさえ、「この子は、小学校のころからずっと・・・」と口にすることが多く、親子そろって、「高校へ行ったら・・・」とあきらめ気味の家庭も少なくない。

友達関係にも同じ状況が働くため、必要以上に小グループに結束力があり、他を寄せ付けない力さえ働いてしまう場合もある。例えば、自然教室の班決めがうまくいかなかった場合でも、私たちには関係ないと、話し合いにさえ参加しないペアもあった。さらに、その状況をリーダーが見て見ぬふりをして、あきらめている様子も見られた。他にも、友達と一緒に部活動を選び、一方が不適応を起こすと、もう一方も一緒に転部するという事態も入部して間もないころに見られた。

中学生になった生徒たちは自我も芽生え、こんな自分になりたい、自分をこんなふうに変えたいと思っている。そんな思いを素直に表現できる、相手に伝えることができる、そんな生徒たち、学級にしたい。そのためには、教師自身が生徒たち一人一人の成長や変化、思いを敏感に感じ取り、それらを取り上げられる環境を準備することが必要である。具体的には、自分が学級に貢献していると実感できる役割や仕事をそれぞれの生徒たちに準備し、それに生徒たちが確実に取り組み、成就感や達成感を感じることである。そうした一連の取組を通して、アンケート結果で多く見られた非承認群（学級で認められることの少ない子）を減らすことができると考える。また、仲間のよさや頑張りを見付け、それらを認め、褒めたたえるような活動に取り組むことも、固定化した友達関係の緩和を促し、新たな人間関係づくりの一助となると考えている。

以上のような実態や教師の願いを踏まえ、

自分に自信をもって行動できる生徒

自分の思いや願いを素直に表現できる生徒

仲間のよさや頑張りを認められる生徒

の3点を意識し、学校行事と本年度からスタートした2学期制を考慮して、構成的グループ・エンカウンターを中心としたグループアプローチの実施計画を立て、実践に取り組むことにした。

なお、抽出生徒については、先述のリーダーの中から、3人を選出する。それらの生徒たちの特徴や傾向は、次のようである。

- ・ A男...前期の級長である。リーダーは初挑戦である。頼まれやすい性格で、本人も断れない面があり、負担になってくると意気消沈する。いじめられた経験もある。
- ・ B子...前期の副級長である。常に全力投球で、必要以上に仲間に気を遣う。1年生の夏休み明けには1か月ほど不登校となる。現在も、月に一度くらいは欠席する。
- ・ C子...前期の書記である。何事にも積極的で、頼まれたことは快く引き受け、確実に行う。友達とうまく接することができず、トラブルになることが多い。放課は読書をして過ごす。

2 実践した場面と時期

月	学校行事	活動場面	ねらい	内 容
4	入学式 始業式 授業参観	① 学級活動	自他理解	「どんな自分になりたいか」(本文参照)
		② 学級活動	自他理解	「こんな学級にしたいな」(本文参照)
		③ 道徳	対人交流	「匠の森」
5		④ 帰りの会	自己理解	「私は私が大好きです。なぜならば...」 (本文参照)
6	体育大会	⑤ 学級活動	自他理解	「君はどこかでヒーロー(体育大会を終えて)」 (本文参照)
7				
8	自然教室	⑥ 自由時間	自他理解	「あなたに感謝」(本文参照)
9	前期のまとめ	⑦ 学級活動	自他理解	「私たちの得た宝物(君がいたおかげで)」
10	後期の始まり	⑧ 道徳	他者理解	「いい合唱を作り上げるためには(ブレンスト ーミング)」
		⑨ 学級活動	他者理解	「伝えようメッセージ(合唱カレンダーづくり)」 (本文参照)
11	文化祭合唱際			

3 実践

(1) 活動 ① 「どんな自分になりたいか」

ア ねらい

新たな学校生活の始まりに際し、「こんな自分になりたい」という目標を掲げ、その目標に向かって少しずつ成長していこうとする前向きな態度や気持ちをもつ。

イ 活動の内容

「こんな先生でいてほしい」「こんなことに心掛けてほしい」など、先生に願うことをワークシートに書く。書いたものの中から、「一番心掛けてほしいこと」を決め、発表する。その際、必ず理由を問う。(「何か、小学校のころにあったの?」)

今度は、「こんな自分になりたい」と題して、目標を思いつくものすべてを書く。書いたものの中から、「一番大切にしたいこと」を理由とともに発表する。

仲間の発表を参考にしながら、自分の前期の生活目標、学習目標を決め、自分への励ましのメッセージを書く。

ウ 参加者の様子と課題

本時は、授業参観を兼ねて実施した。先生への要望を話し合う場面では、「厳しい先生、叱ってくる先生」のような発言に対し、「あっ、厳しいのが好きなんだね!遠慮なく厳しくしていけばいいんだね」とコメントを加え、生徒たちの反応を見ながら、楽しく授業を進めた。また、「ひいきをしない、うそをつかない先生」のような発言の後に、小学校のころの話をする生徒がいて、改めて生徒の目の鋭さ、厳しさを感じた。

次に、「こんな自分になりたい」を発表する場面では、先生への厳しい要求の後だった理由もあって、自分をよく見つめて書かれた意見が多く見られた。

- ・後輩たちから尊敬される自分
- ・毎時間一回は発言できる自分
- ・成績を上げようと努力できる自分

- ・自分の気持ちや考えをきちんと言える自分
- ・自分に厳しく、友達に優しい自分

のように、「 な自分」というように、自分に当てはまる言葉を考えさせた。

案の定、仲間のことを思いやり、優しく接することの大切さを話す生徒が多く、みんなで仲間の大切さを確認するような話し合いができた。他にも、授業後のワークシートから、

- ・相手によって態度を変えない自分
- ・何回裏切られても、信じてあげられる強い自分
- ・人を傷つけない自分

のような記述も見られた。次の時間の「こんな学級にしたいな」の話し合いの中で取り上げ、自分の本音で接することの大切さを伝えていくことにした。

【気になる生徒の様子】

- ・ A男...「みんなに平等な先生でいてほしい」と先生への願いを書く。こんな自分になりたいについては、
「まわりの状況がすぐに把握できるようにしたい」
「あまり差別しないようにしたい」
と級長としての目標と今までの自分を戒める目標が書かれてあった。
- ・ B子...こんな自分になりたいについては、
「どんなときも友達を優先する自分」
と書かれていた。今までも、相手に合わせて行動していたが、副級長となり今まで以上に仲間を大切に生活しようという決意が見られた。
- ・ C子...「前の学校と比較しない先生」と発言し、転動してきたばかりの私には反省させられる意見であった。自分については、
「友達ともっと協力し合える、理解し合える自分」
と書かれ、学級のリーダーになったことを機に、クラスの仲間と接点をもち、仲間を大切にしようとする姿勢が見られた。

年度初め、どの学級でも「目標を書こう」のような取組がなされている。しかし、なかなかよい目標やその子らしい、その子にあった目標にならないことが多い。しかし、この活動のように、まず、担任の先生への要望を自由に発表させ、話し合う活動を行うことで、自分自身を見つめ直す視点をもつことができる。「ひいきしない先生」「うそをつかない先生」という意見から、生徒たちは「クラスのみんなど仲良くする」「いつも笑顔で楽しく生活する」のような、明るく楽しい学級を目指そうとする生活目標が生まれた。

自分で決めた生活目標と学習目標は、顔写真入りの短冊に書き、教室に掲示をした。しかし、一人一人がどのような目標を掲げ、生活しようとしているのかを担任だけでなく、学級の仲間同士が互いに理解していることが大切である。前期の終わりには、互いの活動ぶりを振り返り、頑張りを認め合う時間を設ける予定であるが、日々の生活の中でも、生徒たちのよい言動を見逃すことなく、学級全体に広げていく継続的な取り組みが必要であると強く感じた。また、子供たちの毎日の生活日記の中からも、よい言動を見付けることが大切である。現在は、帰りの会の中で、担任がよい言動を取り上げ、話すように心掛けている。

(2) 活動 **2** 「こんな学級にしたいな(級訓づくり)」

ア ねらい

活動①「どんな自分になりたいか」で書いた前期の生活目標や学習目標を参考に、学級の目標（級訓）を決める。一人一人がどのような目標を掲げ、生活しようとしているかを意識させるとともに、担任としての願いも伝える。そうした上で、みんなの目標を総括した自分たちの学級らしい目標（級訓）を話し合い、決定することで、その目標に向かって学級全体で頑張っていこうという気持ちをもたせ、学級の結束力を高める。

イ 活動の内容

クラス全員の「生活目標」を一覧にし、学級の仲間がどんな目標を掲げ、生活しようとしているかを理解する。担任が「こんなクラスにしたい」という願いを生徒たちに話す。

みんなの掲げた「生活目標」と「担任の思い」を整理し、目指す学級の姿を明らかにしていく。

目指す学級の姿に合ったことば（級訓）を探し、そのことばに込めた思いを書く。

自分が考えたことば（級訓）とそのことばに込めた思いを全員が発表する。

全員が発表したことばの中から、自分たちの学級にあったことば（級訓）の候補を1つ選んで書かせ、そのことばを選んだ理由を書く。

多くの生徒たちが選んだことば2、3つを発表し、どのことばが自分たちの学級にふさわしいかについて再度話し合う。

十分に意見を出し合った後で、多数決を取り、級訓を決定する。

ウ 参加者の様子と反応

クラス全員の生活目標の一覧から、多くの子が目標にしていた

「笑顔」「明るく楽しい学級」「挑戦」「あきらめない」

をキーワードにしながら、どんなクラスにしたいかについて話し合った。

笑顔がいっぱい！明るく楽しいクラス！

何事にも挑戦！あきらめない、最後まで頑張れるクラス！

互いの個性を認め合える、その人らしさが出せるクラス！

あいさつや返事ができる、やるべきことができるクラス！

目指す学級の姿がまとめられた後、それらの特徴にあったことばを探し、それぞれ、そのことばに込めた意味を書いた。

生徒が考えたことばとその意味を一覧にし、一人一人自分の考えたことばとその意味を発表させた。ことばに対する質問や意見は聞いたが、特に話し合いはせず、全員が説明をした後で、自分たちの級訓にふさわしいことばを1つ選ばせ、その理由を書かせた。次の時間は、みんなの意見を集計し、多かったことば2、3つを発表して、どれが級訓としてふさわしいかを話し合うと伝えた。

生徒たちの意見から、次のことばが級訓となった。

『宇宙の星』

（級訓に込められた思い）

- ・宇宙は限りなく広いから、みんなの心の広さを表している。
- ・宇宙を教室として、たくさんの星は、みんなを表している。
- ・星1つ1つ、みんなが自分らしく輝けるクラスにしたい。
- ・宇宙の「宇」は先生の名前の「宇」です。宇宙で最も大きい星、太陽が先生で、みんなを温かい光で包み込んでほしい。
- ・みんなで先生と一緒にいいクラスにしたい、みんなが輝く宇宙をつくりたい。

一人一人の生活目標からスタートして、それらを総合して、最終的にクラスの目標である級訓へと活動を進めていくことで、本当の意味での学級目標「級訓」を創り上げることができた。また、担任の特徴を生かしたり、他のクラスと違っためずらしいことばを十分に吟味したりする活動を通して、自分たちらしい級訓を創り上げることができた。「宇宙の星」、一年を通して初心を忘れない、いつでも生徒たちに投げかけられることばになった。

問題点としては、級訓を作り上げるまでに時間がかかるということがある。話し合う時間が取れなかったり、よいことばが見つからなかったりして、間延びしてしまうことがある。上手に時間を確保して、生徒たちの気持ちが新鮮なうちに級訓決定までの時間を確保することが課題である。

【気になる生徒の様子】

- ・ A男...「仲間はずれのないクラス」「何でも挑戦できるクラス」と、クラスへの思いを語った。いじめられた経験のある自分の生活を振り返っての素直な思いであり、リーダー初挑戦への意気込みも感じられる意見であった。
- ・ B子...「困っていたら助け合えるクラス」「どんなささいなことでも『ありがとう』の言えるクラス」と、自分のふだんの姿勢と、その頑張り一人でも多くの人に気付いてほしい、『ありがとう』の一言が互いに言えるようにしたいという素直な気持ちを級友に伝えた。
- ・ C子...「仲間はずれがないクラス」「けんかをしないクラス」と、現在の自分の状況を変えよう、自分も変わろうという思いが感じられた。その後、みんなの前向きな意見を聞き、「誰もが成長して、笑顔の満ちあふれるクラス」と意見を言い直した。仲間とかかわろうとしない自分を変えようとする言動に期待したい。

(3) 活動 4 「私は私が大好きです。なぜならば... (1分間スピーチ)」

ア ねらい

自己開示することで、気軽に話ができる雰囲気をつくる。また、友達の知らなかった一面に触れることで、友達に対する理解が深まる。さらに、クラス全員に感想を書いてもらうことで、自分のよさを再確認でき、自分に自信をもつことができる。

イ 活動の内容

あらかじめ、名簿番号順男女交互にスピーチする日を予告する。
担任が初めにスピーチをし、話し方や話す内容、時間等の手本を見せる。
スピーチの後、感想を一分間で書き、封筒に入れて本人に渡す。
次に話す人を確認し、話す内容を考えるよう促す。

ウ 参加者の様子と課題

初めのうちは、すぐに話せなかったり、内容の薄いスピーチが多く、実施方法や話す内容について検討が必要ではないかと強く感じた。しかし、自分についてしっかり話したものなど感心させられるスピーチもあった。担任が、自己開示できる子とできない子が分かるよい面も感じた。スピーチの順番も中ごろを過ぎたとき、突然、「私は私が大嫌いです。なぜならば・・・」と話し出す女の子が現れた。「素直に自分の気持ちを伝えられないからです。いいよいいよって、自分から我慢しておいて、後から嫌な気分になる、後悔する、それで暗くなる、そんな自分が大嫌いです」と話をまとめた。その後の感想は、クラス全員が黙々と書いていた。

翌日、本人の生活日記には、『私も同じようなことがよくあるよ』と書いてくれた子がいて、うれしかった。自分の嫌な面を話してよかった」と書かれていた。担任として、その日の帰りに、「いい

自分も、ダメな自分も全部ひっくるめて本当の自分だよね」と話し、自分が大好きな話でも、大嫌いな話でもどちらでもよいことにした。この機会を通して、クラス全体に自己開示しやすい雰囲気が出てきたように感じた。

問題点としては、感想を書かせたことが効果的だったかどうかである。聞いた内容に対して、同感したり、その子の違ったよい面を伝えたりすること、様々な話の中から仲間のよさを見付ける視点を増やすことをねらいとした。生徒たちの様子からは大きな問題はなかったが、感想の書かせ方については、もう少し検討したい。

【気になる生徒の様子】

- ・ A男... 1分間スピーチのトップバッターということで、少し恥ずかしそうに話を始める。「人から頼まれたことは断らない自分が好き」と話し、級長としてみんなのために頑張りたいと話した。
- ・ B子... A男に引き続き女子のトップバッターということで、同じように照れながら話をする。「苦しくても、笑顔を忘れない自分が好きかな」と、今までの自分を振り返っての本音をみんなに伝える。
- ・ C子... 「いやなことがあっても、あまり気にしない自分が好き」と話す。本心は、とても気にするのに、そのような自己を開示するように至ってないようだ。担任としては、みんなからの感想がとても気になった。

(4) 活動 ⑥ 「あなたに感謝（宿泊行事でのエクササイズ）」

ア ねらい

ふだんとは違う生活環境の中で、教師と生徒、及び生徒相互の人間的なふれあいを経験する。また、一緒に研修を進めてきた仲間とこれまでの感謝の気持ちを自己開示し合い、お互いの理解を深めるとともに、残りの日程を充実したものにす。さらに、仲間への思いやりや優しさを今後の学校生活に生かすことができる。

イ 活動の内容

宿泊行事の最後の夜に、「あなたに感謝」と題して、研修を振り返る。

あらかじめ、研修のしおりの中に、ワークシートを用意しておく。

今日までの研修の中で、班の仲間に助けられたこと、うれしかったことを2分間隔でまわし書きする。

自分に対して書かれた内容を5分間読んで、感想や残りの日程で心掛けることなどを書く。

ウ 参加者の様子と課題

最後の夜の自由時間での実施ということで、生徒たちがエクササイズに集中できるか心配した。しかし、実際は整然とした雰囲気の中で、黙々と仲間への感謝の気持ちを綴る生徒たちの姿が見られた。2分の間隔で、まわし書きをさせたが、時間的にはちょうどよかった。班の仲間全員に感謝の気持ちを書き終えた後で、自分に書かれた内容を読む時間を十分にとった。しおりに書かれた仲間からの感謝の思いを読み、微笑んだり、中には涙する生徒たちも見られ、気持ちの高ぶりを感じた。その後、感想や残された日程の中で心掛けることを書いた。

- ・ 「自分では何もしてないように思っていたけど、みんなよく見ているんだなと思いました。みんなの言葉がかなりうれしいです。」
- ・ 「みんな、今日は本当にありがとう。みんなのおかげで最高の思い出をつくることができました。ぼくは、この班でよかったなあと本気で思いました。」

・「私が班長をやってよかったのかなと思うときが何回もありました。でも、みんながいろいろなことを書いてくれて、班長をやってよかったと思えるようになりました。あと1日だけど、班長として頑張るね。」

生徒たちにとって、自分ではそんなつもりではなかったのに感謝されている場面や自分の言動を班の仲間がよく見ていること、覚えていることを実感できるエクササイズであったといえる。また、班の仲間への感謝の気持ちや残りの日々を充実させようとする気持ちをもつことができ、リーダーが自分の頑張りに満足し、自信をもつことができるエクササイズであったともいえる。予想以上の生徒たちの感情の高ぶりに、宿泊行事における構成的グループ・エンカウンターの有効性を実感できた。

課題としては、グループごとのシェアリングを実施しなかったことが挙げられる。時間がなかったことが最大の理由であるが、わずかな時間でもいいので、グループごとに話し合いをすればよかったと反省している。

【気になる生徒の様子】

- ・ A男...「自分では、あまり気付かなかったことをみんなが書いていて少しびっくり。でも、とてもうれしかった。」と感想を書いた。自分の頑張りが認められた喜びを実感することができた。
- ・ B子...「自分がわがまま言ったり、キレたりしたときにも、みんなが真剣に聞いてくれてこのままじゃいかんと思ったけど、直せませんでした。なのに、みんなはこんなにいろいろ私のことを心配してくれてうれしかったです」と感想を書いた。「キレた」ことに班の子たちが気遣いしたという事実を担任は知らなかったため、驚かされた。しかし、班の仲間からの感謝の気持ちや励ましの言葉で、キレてしまった自分を反省するよい機会となった。また、これからの学校生活で、リーダーとして決してキレることなく、仲間のために、クラスのために活躍する姿を期待したい。
- ・ C子...「みんなの気持ちが文章から伝わってきてとてもうれしかったです。みんなありがとう」と感想を書く。オリエンテーリングの際に、仲間の荷物を持ってあげたり、仲間を気遣った行動が認められ、仲間とかかわることのよさや仲間とのかかわり方を肌で感じることができた。

(5) 活動 7 「私たちの得た宝物」(君がいたおかげで)

ア ねらい

前期の学校生活を振り返り、学級の各自がどのような役割や仕事を担い、果たしてきたのかを確認する。さらに、学級のために頑張ってきた仲間と互いにたたえ合うことで、前期の活動を締めくくり、後期へのステップとする。

イ 活動の内容

前期の思い出について話し合う。

前期のクラスの印象及び自分に任された役割、仕事について詳しく書く。

教師の合図で一斉にワークシートをまわし、1分以内に、「君がいたおかげで…」に続く文章またはその子との思い出について書く。

クラス全員にまわったら、自分のワークシートをよく読み、感想を書く。

ウ 参加者の様子と課題

初めに、前期の思い出について話し合った。宿泊を伴った乗鞍自然教室が一番の思い出と話す生徒

たちが多かった。その後、前期を終えてのクラスの印象と前期に自分に任された役割や仕事について記入し、まわし書きを始めた。クラスの印象については、

- ・どんな時でも笑いがあふれ、楽しいクラスでした。みんなが、みんなのことを考え、協力性がすごくみられました。学校へ来るのが楽しくなるようなクラスでした。
- ・元気で、明るい人たちがいっぱいいたクラス。みんなが気づかないところで頑張っている人がたくさんいるクラス。
- ・落ち込んでいる人がいたら、励ましてくれる心優しい人たちがたくさんいるクラス。自分の意見をしっかりもっている人が多いクラスだと思った。

のような、居心地のよい、過ごしやすいクラスと感じている生徒がほとんどであった。

まわし書きについては、初め、1分間という時間に戸惑っていたが、徐々に時間にも慣れ、整然とした雰囲気の中で、クラス全員に感謝の言葉を書くことができた。

再び自分の手元に戻ってきたワークシートをじっくり読む時間を取り、その後、感想を書かせた。感想の多くは、気付かなかった自分のよさを仲間が見付けてくれたことへの喜びと後期への抱負や意欲がほとんどであった。学期の終わりに実施するエクササイズとして有効であることを実感できた1時間であった。

【気になる生徒の様子】

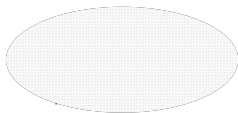
- ・ A男...「初めての級長、どうだった。意外に楽しかったでしょ。これからも、学級、学年のために頑張れ」と、級長として頑張ったことをほとんどの子が書いていた。本人の感想も、「級長をやってよかった。みんながいろいろなことを書いてくれてうれしかった。これからも、いろんなところでみんなをまとめていきたい」と書き、リーダーとしての自信が感じられた。
- ・ B子...副級長で頑張ったことに加え、後期に役員をする生徒会への期待がたくさん書かれていた。本人の感想も、「みんなの力で入れた生徒会だから、最後まできちんとやらないとみんなに申し訳ない」と書いた。前期、副級長をやり遂げた自信を胸に、後期、新たな気持ちで生徒会役員にチャレンジしようとする気持ちが伝わってきた。
- ・ C子...リーダーとして頑張ったことと同時に、授業中に居眠りしていることを指摘されていた。本人の感想の中には、「みんなに、寝るなと書かれたので、居眠りしないように気を付けるね。前期の経験を生かし、後期は、部長としてみんなをまとめられるよう頑張ります」と、みんなの目の厳しさを実感した様子が分かる半面、リーダーとしての自信を部活動で発揮しようとする前向きな姿勢も見られた。

図1 「私たちの得た宝物」ワークシート
「2年A組での前期を終えて」

平成16年10月7日(木)

2年A組()番 名前()

大切な2年生の1年を一緒に過ごすことになった2年A組の仲間。そんな大切な仲間との生活も、あっという間に半年が過ぎてしまいました。前期は、体育大会に乘鞍自然教室と大きな行事があり、夏休みから部活動を任され、忙しい毎日で、自分のことや学級の仲間のことを考える暇なんて全くありませんでした。今日は、少し時間を作って、自分や学級の仲間のことをよく考え、振り返ってみましょう。仲間の頑張っていた姿、仲間に分けられたこと、うれしかったことを書き、後期がさらに充実した日々になるよう、互いに頑張っていきましょう！

A組の印象や感じたこと	今、自分に任されている仕事
	

(6) 活動 9 「伝えようメッセージ」(合唱カレンダーづくり)

ア ねらい

前時のブレンストーミング「よい合唱を創り上げるためには」の話し合いを受け、よい合唱にす

るための方法や仲間への励ましの言葉をカレンダーに書き留めることで、よりよい合唱を作り上げることができる。また、歌う度にカレンダーをめくり、教室に掲示することで、努力が目に見えて分かり、合唱コンクールに向けての雰囲気盛り上げることができる。 資料1 合唱カレンダー

イ 活動の内容

合唱カレンダーをつくるために、紙を3, 4枚配布する。
 自分に決められた番号を紙の中心に書き、そのまわりによりよい合唱にするために心掛けることや励ましの言葉、カットなどを書く。
 100から順に1まで紙をそろえて、カレンダーを完成させ、曲を歌う度に1枚ずつはがし、教室に掲示する。



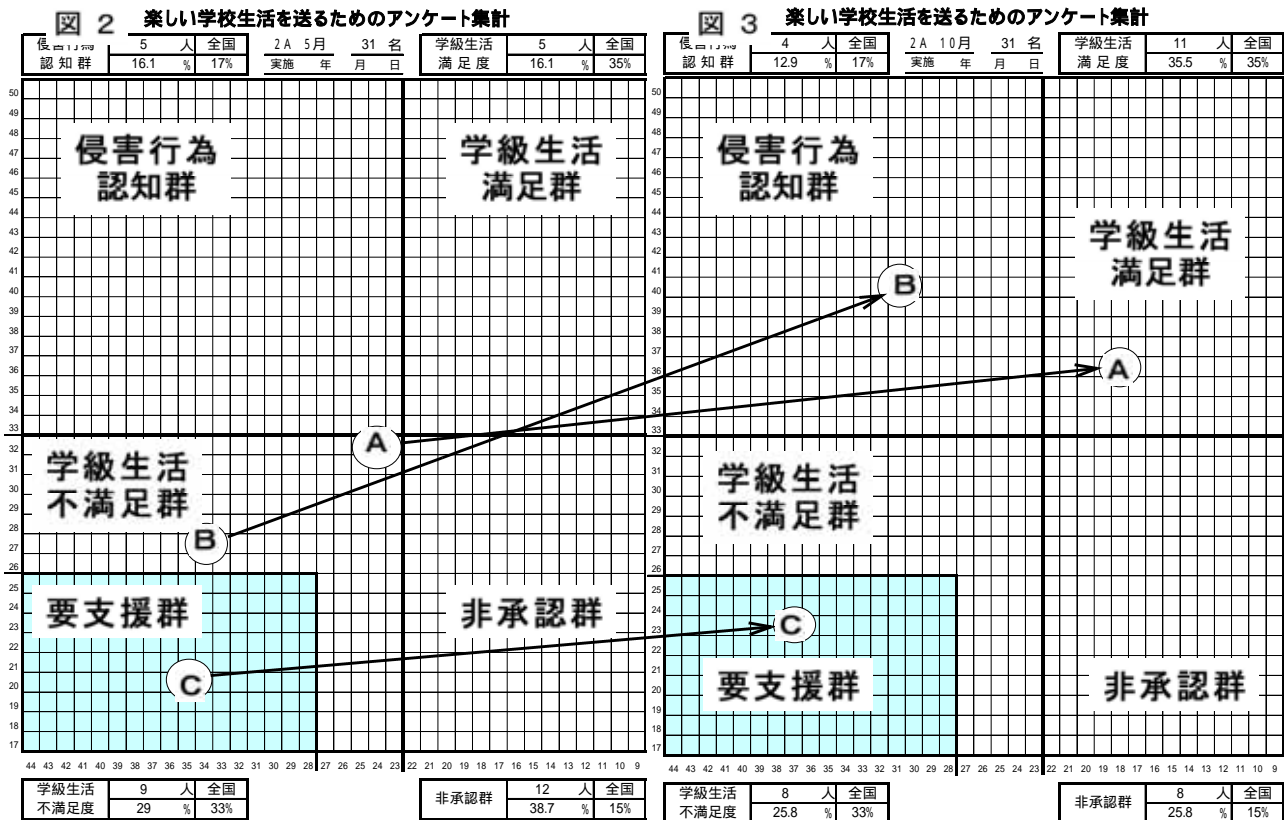
ウ 参加者の様子と課題

それぞれ任されたカレンダーを工夫しながらつくることができた。初めや終わりなど重要な数は、クラスのリーダーが作成した。ラスト1回のカレンダーは、A男が心を込めてつくった。リーダーとして、みんなに感謝するとともに、合唱コンクール当日に向け、「自信をもって歌えるはず」「全校1位をめざそう」のような全員への激励も書かれ、心を一つに、合唱を歌い上げることができた。

4 効果・課題

(1) 学級および気になる生徒の変容

4月当初の学級の実態から、前期は、「自分の考えや気持ちを相手に伝える活動」を中心に取り組み、行事ごとに仲間のよさを認め、たたえ合う活動に力を入れてきた。そのおかげで、生徒たちは、少しずつ学校生活が楽しくなり、自分の思いや願いを素直に表現できるようになってきた。下のQ-Uの結果を見ても、少しずつではあるが学級生活満足群の生徒たちが増え、学級全体が中央へ、右 upper 方向にあることが分かる。



気になる生徒として選んだ3人を で表し、変化を記入してみた。変化は次のようになった。

表1 抽出生徒の変化

A男は、被侵害得点の減少が見られた。減少した理由として、質問12「クラスや部活でからかわれたり、ばかにされたりするようなことがある」に対する得点の減少があった。4月当初は、クラスの仲間から「さる」というあだ名で呼ばれ、そのことを本人はいじめられていると答えていた。前期級長としての頑張りやみんなのために活動する姿が認められたことで、あだ名で呼ばれなくなったことはもちろん、呼ばれても聞き流せるだけの自信を身に付けたことと解釈している。

	承認得点			被侵害得点		
	5月	10月	変化	5月	10月	変化
A男	32	36	+4	24	18	-6
B子	27	40	+13	34	31	-3
C子	20	23	+3	35	37	+2

B子は、承認得点の向上が顕著に見られた。すべての質問に対して、得点が向上している訳であるが、中でも、質問4「学校やクラスのみならずから注目されるような経験」、質問6「クラスで行う活動には積極的」、質問9「協力してくれる友人」、質問10「自分の本音や悩みを話せる友人」では、2ポイント以上の得点アップが見られた。昨年は、リーダーとして自信をなくし、不登校までおこしたB子が自分に自信をもち、友人関係を広め、深めた前期になったことが分かる。

C子は、4月から比べると、仲間と放課を過ごす姿も見られ、学級の中でも自分らしく生活できるようになってきた。部活動では新チームとなり、キャプテンとなった。少しずつ、よい方向へと変化が見られてもいいはずであるが、相変わらずの被侵害得点の高さが気になる。アンケート結果を見ると、質問12「クラスや部活動でからかわれたり、ばかにされたりする」、質問15「クラスで班をつくるときなど、なかなか班に入れない」、質問18「まわりの目が気になる」、質問19「学校へ行きたくない」の4つの問いに対して、とても思うと答えている。前期を振り返ると、C子自身は自分を変えよう、仲間とうまくやっとうまく努力しているが、なかなかうまくいかない、長続きしない自分にいらだちを感じているように見えた。また、担任の私もC子が本心と違うことを言ったり、強がったりする態度に対し、注意することが多かった。それらの要素が、変わろうとしているC子の壁となってしまうように思う。後期も、C子を学級全体で認めつつ、担任として支えていかなければならないと感じている。

次に、クラスに目を向け、アンケートを詳しく分析してみた。承認得点で、クラスの平均が0.2以上増えた項目は、次のようになった。

質問内容(太字は5月にリーダーの点が低かった問い)	5月	10月	変化
2. 私はクラスで存在感がある	2.81	3.07	+0.26
3. 自分を頼りにしてくれる友人がいる	3.03	3.23	+0.20
4. 学校やクラスで注目されるような経験がある	2.74	3.09	+0.35
9. 自分が何かしようとするとき協力してくれる友人がいる	3.65	3.87	+0.22
10. 学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる	3.48	3.74	+0.26

また、被侵害得点の平均は、大きな変化が見られなかったが、

質問内容(太字は5月にリーダーの点が高かった問い)	5月	10月	変化
20. 私はクラスメイトの友人関係についてあまり知らない	2.71	2.39	-0.32

のみが大きな減少となった。2つの結果から、自分の思いや願いを仲間に伝えたことで、お互いを理解しようとして動き出したこと、仲間のよさを見付ける活動を通して、仲間との距離が縮まり、人間関係が改善されつつあることがわかる。

(2) 考察と課題

あんなに前向きで、生き生きと活動している学級の中で、リーダーたちが「どうして自信がないんだろう」「どうしてまわりを意識しすぎるのんだろう」という思いの中で、今年がスタートした。新たな職場で今まで以上に自由になる時間がない中で、例年と同じように、学級開きを行い、担任の先生に対する要望から自分の目標、そして学級の目標へと展開し、教師の願いと生徒の思いが含まれた級訓を決めることができた。抽出生徒に挙げられているA男もB子も、堂々と司会をつとめ、みんなの意見を大切にしながら会を進めることができた。少しは自信がついているのだろうかと聞いてみたくなるくらい、きちんと活動できていた。

きちんとできる自分も、ダメな自分も全部打ち明け、さらけ出してほしいと、「私は私が大好きです。なぜならば…」というショートエクササイズにも取り組んだ。初めは、自分のよい面のみを発表させればよいと思ったが、生徒から自発的に出てきた、「私は私が大嫌いです。なぜならば…」という話をする動きを尊重した方がよいと考えた。いい自分も、ダメな自分もすべて含めて本当の自分なのである。そこで、ふだんの学校生活の中では、決して仲間には言えない自分の至らない点に少しでも触れる話をしてほしいと思って取り組んだ。結果は、納得させられる話もたくさんあった。自分のダメなところを話した後のちょっと照れくさい中に、「こんなところをなおして、こんな自分になりたい」というエクササイズに安堵した表情がとてもさわやかであった。

宿泊を伴う自然教室の中で行った「あなたに感謝」。ふだんとは異なる環境の中で、教員も含め、仲間のよさに目を向け、認め合う活動を通して、生徒たちの人間関係が深まることを期待した。研修と研修との限られた時間の中で行ったエクササイズであったが、自分では気付かないことをみんなが見ていてくれることや感謝していること、この班の仲間と一緒によかったという思いがもてたことで、クラス内の人間関係に広がった。

前期の活動を振り返り、互いを認め合い、たたえ合うエクササイズ「私たちの得た宝物（君がいたおかげで）」。4月から一人一役を意識して取り組んできた学級活動や学校行事での活躍を認め合い、感謝し合うことで、学級での所属感を感じるとともに、後期へのさらなる活躍のエネルギーとなった。

そして、後期が始まり、合唱コンクールや文化祭に合わせたタイムリーなエクササイズを実施することで、いっそう人間関係が深まることを期待している。また、前期は「自分の考えや気持ちを相手に伝える活動」がほとんどであった。後期は、「相手の気持ちを考えて行動する体験」も踏まえたエクササイズ（共同絵画、背中合わせ・向かい合わせの会話など）にも取り組んでいきたい。

今後も、自分の思いを素直に表現できる活動や仲間のよさや頑張りに気づき、認めることができる活動に取り組みたい。その経験を積み重ねることで、リーダーはもちろん、他の多くの生徒たちも自分に自信をもち、生き生きと生活できるようになってくれたらと願う。後期の取り組みをさらに充実させることで、効果のある実践にしていきたい。

<参考文献>

- 國分康孝『エンカウンターで学校が変わる 中学校編』（図書文化社 1996）
- 國分康孝『エンカウンターで学校が変わる Part 中学校編』（図書文化社 1997）
- 國分康孝『エンカウンターで学校が変わる Part 中学校編』（図書文化社 1999）
- 佐藤幸司『とっておきの道徳授業』（日本標準 2001）
- 星野欣生・津村俊充『Creative School』（プレスタイム 2003）